

朝鮮石人像を訪ねて (63)

深田 晃二

～朝鮮王陵保存状態報告書、ドイツから帰った朝鮮文人石一対の事情、平壌文人像～

1. 朝鮮王陵の石造文化財の保存状態報告書

国立文化財研究所が 2020 年 2 月 24 日に朝鮮王陵 40 基の石造文化財の状態を 5 段階で評価した報告書を発表した。聯合ニュース記事で (括弧) は訳者の注。

『朝鮮王陵の中で東九陵の中にある健元陵と顯陵、南楊州の光陵の石造文化財の保存状態が相対的に悪いという分析結果が出た。』

国立文化財研究所が 24 日公開した「朝鮮王陵石造文化財一保存状態調査報告書V」によれば、北韓にある齊陵と厚陵を除外した韓国朝鮮王陵 40 基の石造文化財の状態を 5 段階の尺度で評価した結果、健元陵・顯陵・光陵が 3.6 点で、最も悪かった。

損傷の度合いは「0~1 点・優、1~2 点・良、2~3 点・普通、3~4 点・悪い、4~5 点・非常に悪い」と分類した。



1等級 (1点)



5等級 (5点)

(第 1 代) 太祖の健元陵、文宗(第 5 代)と顯德王妃の顯陵、世祖(第 7 代)と貞喜王妃の光陵は、比較的早い時期に造成された故に風化がひどいと推定される。

続いて、太宗(第 3 代)と元敬王妃のソウルにある獻陵端宗(第 6 代)の莊陵、成宗(第 9 代)の共惠王妃の坡州にある順陵、中宗(第 11 代)の章敬王妃の高陽にある禱陵の石造文化財も 3.5 点で状態が良くなかった。大韓帝国最後の皇帝純宗(第 27 代)の南楊州・裕陵は 1.6 点、高宗(第 26 代)の南楊州・洪陵と肅宗(第 19 代)の仁敬王妃の高陽・翼陵は 1.9 点で比較的良かった。報告書は「朝鮮王陵石造文化財の平均毀損等級は 2.7 点」とし、「表面風化はソウル・泰陵、表面変色は楊州・溫陵が一番ひどかった」と説明している。

「石造文化財に大きな影響を及ぼす生物である地衣類の出現割合は、驪州(ヨジュ)・英寧陵 100%、高陽・西三陵 100%、九里・東九陵 94.1%、高陽・西五陵 87.5%、と高いが、ソウル・宣靖陵と泰康陵は 79.7% で低かった」とし、「樹木環境が良く環境汚染がひどくない所に、むしろ地衣類がよく繁殖することがわかった」と強調した。

「石造文化財の構造的状態も、大部分悪くはなかった。」

「陵別現況と損傷進行状況を判断し重点監理が必要な王陵を選定し、体系的に保存管理システムを用意する必要がある」としている。これらの報告書は研究所が 2013 年から 2016 年まで行った調査結果を入れて、今回出版された五巻

で完結する。ユネスコ世界遺産である朝鮮王陵石造文化財 4,763 点を調査対象としている。

陵別損傷程度を比較し損傷原因を把握し、保存管理方案を提示した。また王陵の立地環境、石造文化財の岩石特性も分析した。朝鮮王朝実録、朝鮮王朝儀軌、承政院日記、日省録に記されている王陵修理記録と最近 50 年間に施行した石造文化財の保守内容も収録している。

文化財庁宮陵遺跡本部(旧・朝鮮王陵管理所)は、報告書内容を基に九里・健元陵の石造文化財の保存処理を行う方針である。引き続き南楊州・光陵、九里・顯陵、ソウル・獻陵の保存処理を行う計画である。

報告書は国立文化財研究所文化遺産研究所知識ポータル portal.nrich.go.kr で閲覧可能である。』

古い時代の物ほど傷んでいるのはわかるが、緑豊かな環境にある物ほど苔などの地衣類が増えるのは皮肉である。対象の石造文化財の数の内千点程が望柱石、文人・武人石、石馬、石羊、石虎、魂遊石であり、残り 4 千点には墳墓を取り巻く屏風石、欄干石、石柱や丁字閣廻りの階段石、禁川橋等、王陵内全ての石造物を含むのだろう。保存処理を行い末永く世界遺産を保存して欲しい。

2. ドイツから帰った朝鮮時代文人石一対の事情

通信 295 号の「訪ねて 59」でドイツから返還された文人石一対の記事(世界日報 2019 年 2 月 21 日)を載せた。そこでは「本来の一対ではない」と結論めいて書いたが、その点も含め見逃した部分が多いので改めて掲載する。

『2-1. ローテンバウム世界文化芸術博物館

「石人」を立てる風習は BC 206 年から AD 24 年の間に、中国で始まったといわれている。我が国では統一新羅時代の 7 世紀から 8 世紀頃登場した。

朝鮮時代に作られた文人石一対がドイツから帰ってきて来る。元々あった場所がどこなのか、誰の墓を守ったのかもわからないこの文人石一対が熱い関心を集めている。なぜか。

今この文人石のある所はドイツ・ハンブルグにあるローテンバウム世界文化芸術博物館だ。ヨーロッパの代表的な民族学博物館の 1 つで、2 千 7 百点を超す韓国文化財を持っている。これまでこの文人石はドイツ人業者が、1983 年ソウル仁寺洞の骨董品商で購入して搬出した後、1987 年ローテンバウム博物館が買受けたものだ。

返還のきっかけは国立文化財研究所の文化財実態調査であった。海外にある我が国の文化財を調査してきた研究所は 2014 年から 2016 年までローテンバウム博物館で調査をしてきた。三回目の調査をした 2016 年、博物館の首席研究員が私たち調査団に質問をなげかけた。文人石とは何かと言う間だった。国立文化財研究所関係者たちは「祖先崇拜思想によって墓の前に

建てるために作るもので、観賞用や販売用としては使われないと説明した。

2-2. 自発的に基本守ったドイツ

美術品として取り引きはされないということに疑心を抱いたローテンバウム博物館は入手経緯を明らかにするため調査を始めた。そして文人石が「法にも毛布にくるくる巻きにされ引越荷物コンテナに積まれて入って来た」と言う事実を確認した。

今回の返還が興味深いのはこの部分だ。ローテンバウム博物館はまず「不法性が疑われる」と言う話を韓国側にした。それとともに「公式返還要請書を送ってくれ」と要請した。書類を要請された国外所在文化財財団は去年3月返還要請書を作成して伝達した。ローテンバウム博物館とハンブルグ州政府、ドイツ連邦政府が返還手続きを進め去年11月最終的に返還が決まった。文人石は長年の放浪を終わらせて36年ぶりに故国に帰って来ることになった。

実はドイツが文人石を必ず返さなければならない理由はない。「ユネスコ協約」と「国際博物館協議会倫理綱領」に不法搬出を阻む内容があるが必ず守る必要があるのではない。

ユネスコは1970年11月14日ユネスコ総会で文化財の不法搬出を阻む協約を採択した。いわゆる「1970年ユネスコ協約」と呼ばれるこの協約は「文化財の不法的な搬出及び所有権譲り渡しの禁止と予防手段に関する協約」である。しかし強制力がなくて、しかもドイツは2007年に協約に加入したので敢えてこの協約に従わなければならない義務はない。国際博物館協議会(ICOM)も倫理綱領で「博物館資料を取得する場合には該当の資料が不法所有に起因したのではなくて不法に流出されなかつたことを前もって確認するためのあらゆる努力を傾けなければならない」と強調しているが、これまた綱領ではあるが必ず守らなければならぬものではない。

今回の自発的返還にはローテンバウム博物館館長の意見が大きく作用したことが知られている。バーバラ・プランケンスタイナー館長は返還が決まった後「今回の事例が歴史的文化財に対する不法輸出が長い間些細な犯罪と思われて來たし、博物館自らが詳しく調べることをせず、問い合わせなかつたという事実がある」と語った。また「ユネスコ協約を適用して大韓民国に貴重な遺物を返還できて嬉しく、韓国側との協業を堅固に持続する過程が一步先に進んでほしい」と話した。

2-3. 日帝強占期に価値注目…海外に移転開始

ところでこの文人石はどんな背景で引越荷物コンテナに隠されてドイツまで行ったのか。元々墓の守護者である文人石と武人石は我が国と中国で一般芸術品ではない「別個の芸術品」として取引の対象にならな

かった。しかし日帝強占期、日本の古美術商たちが韓国に入って来て本格的な活動を始めて、盜難にあうとか不法取引きが増え始めた。特に1930年代日本古美術市場で彫刻品としての石物(石造人間像と動物像を含む)の価値に注目し不法搬出が急増した。そして1980年代までこんな慣行が頻繁に行われて來たようだ。政府は1990年代に入ると石物の取り引きを厳格に禁止し始めた。

参照までに、今では価値はあるが公式的に文化財に指定されない「非指定文化財」の場合、購入して海外に持つて出ることはできる。しかし持ち出しには文化財委員会の承認を受け、しかも空港にある文化財鑑定官室で最終的に承認を受けなければならない。

2-4. 「口開けて閉じて」似ているが違う文人石

最後に、この文人石が持つ文化財としての価値は何なのかについて見ていく。まず文人石の大きさと彫刻水準を見ると、王陵ではない一般士大夫の墓に置かれた物と推定される。高さがそれぞれ131cm、123cmで8cm程度違いはあるが人体各部の比率や彫刻方式などを見た時二つの石像は同じ墓に置かれた「一对のセット」と言える。手に持っている笏があごに触れている姿は16世紀中盤以後に現われる特徴である。また袖(そで)の下端が身の横を通って終わる方式は16世紀後半から見られ始めている点で、この文人石は16世紀後半に作られたと推定される。

2-5. この文人石の「口の模様」



左側の文人石は口を「あ」と開けていて、右側は口を閉じている。国外所在文化財財団に評価意見を出した石彫刻専門家キム・イスン弘益大教授はこの姿が仏教で言う「あうん(阿吽)」の表現であると推定している。口を開けた模様と閉じた模様の「あうん」は始めと終りを意味する仏教的図柄だ。慶州石窟庵にある「仏教の守護神」金剛力士も似ている口模様だ。もしこの文人石の口が「あうん」の表現なら、儒教的意味を持つ文人石に仏教的要素が加わった珍しい例になるという説明だ。』 文化財に関してユネスコ協約の勉強が必要だ。

3. 平壌文人像

森友事件で自死した赤木俊夫さんの奥さんが大阪地裁に提訴した。再調査するしないの問題ではなく、裁判だから司法で証拠調べを厳格に行って欲しい。

赤木さんが「東洋館」の看板の前で撮った写真がネットに上がっているが、背景の石人像から東京国立博物館の東洋館だとわかる。特徴的な冠の○印から現地案内板にある「伝 朝鮮平壌(18~19世紀)新田愛祐氏寄贈」の石人像である(訪ねて33参照)。(続く)